

平成30年度 第4回 「一日体験ボランティア」 平成31年1月19日（土）実施の報告

ケア帽子の普及を進める 「わた帽子の会」

～ケア帽子作りのお手伝い～

※ケア帽子とは…抗がん剤治療で脱毛したときにかぶる帽子のこと。

毛がパラパラ落ちるのを防いだり、自宅でウィッグをつけないときにかぶる。

今年度第4回の「一日体験ボランティア」は、「わた帽子の会」の「ケア帽子作りのお手伝い」でした。

参加者は高校生が1名、一般の女性が6名、一般の男性1名の計8名で、講師の赤石敏子さんに作り方を教えてもらいながら、皆さんにケア帽子作りを体験していただきました。

初めに赤石さん自身の癌の体験談とケア帽子を作るようになった経緯、現在の活動の様子をお話していただきました。

針を持ち慣れていない参加者も何人かいて、ケア帽子を縫う作業の中の返し縫のやり方が直ぐに理解できない状況の中で、参加者の一人から、「小学校の時に習ったよ！」と発言があり、会場が大笑いで和む場面もありました。

途中で、アップルウェーブさんの、生中継の取材があり、少し緊張した場面もありましたが、加藤アナウンサーから参加者へのインタビューも放送されました。

ケア帽子を作るには、初めての方だと2時間くらい必要で、みなさんと、ケア帽子を作りながら、それぞれの体験談や1日体験に参加しようと思った経緯や、癌に関係する話題等で、終始和やかな雰囲気でした。参加者が、それぞれ持ち寄ったタオルでケア帽子を作り、みなさんが完成させることができ、自分が作ったケア帽子をかぶってみたりして満足げな様子でした。

参加者からは、「ケア帽子の誕生話や体験などの話がとても心強く思いました。自分の為に返ってくると信じてボランティア活動したいです。」「ボランティアの良さが分かった。誰かの役に立つことを学べたので嬉しい。」「赤石さんの実体験を聞くことができ、大変参考になりました。ケア帽子もできとても嬉しく思いました。」「10代、20代の方が興味を持ってきてくれて嬉しかったです。」という感想をいただきました。

また、癌の友人に帽子を作ってあげたいという理由で参加した方もいて、今日の体験で覚えたケア帽子が多くの方に広がっていくことが、赤石さんの願いでもあるので、最後に赤石さんから、みなさんに「参加してくれてありがとう！」と感謝の言葉が伝えられました。